

村上ミキ氏遺族からの寄附金の活用について（報告）

本件は、別紙「ピアノの由来」にあるように、去る平成27年（2015）8月23日に村上ミキ氏の遺族、Doi Robin一家が所縁の本市を訪れ、その際のハーモニーホールでの対応に感謝して寄附をいただき、これを活用した成果の報告です。

村上ミキ氏は、すでに「郷土の先人に学ぶ」の中で触れられている様に、大正年間にアメリカにわたり、ユタ州ソルトレーク市で夫君と共にホテル経営を行い成功した立志伝中のひとりですが、昭和26年（1951）6月に日本に里帰りし、生まれ育った当時の座間町の状況を見て、千ドルの寄付を当時の町当局に申し出、以後、学校に図書を寄贈されるなど昭和30年まで教育文化の振興に一方ならぬご援助をなされたかたですが、それから64年後にお孫さんにあたるDoi Robinさん一家が本市を訪れたこととなります。

この寄附は祖母の故事に因んでの事ですが、村上ミキさんが栗原に所縁が深いということや、グランドピアノ購入に関わる費用の寄附などに鑑み、栗原小学校に現存するピアノについて、同校の皆さんや、来校者などの方々にこの業績を長くお伝えするべく別紙「ピアノの由来」文章を案内板に使わせていただき、また、ベルトパーテーションをピアノの周辺に設置して保護をするという形で、Doi Robinさんからの寄附の活用を図りました。

なお、最後となりましたが、この度の案内板などの設置にあたり深いご理解をいただき、ご協力をいただいた栗原小学校の柏木直樹校長先生、教頭の能條友子先生に厚く御礼申し上げます。

令和4年4月13日

座間市教育委員会教育研究所
教育史編集員
浅野 寛

① ピアノ全景



② 案内板設置状況



ピアノの由来

むかし、このようなグランドピアノは極めて高価でしたが……栗原出身の村上ミキさんの寄付をもとにして、昭和26年(1951年)に購入され、音楽の授業や演奏会で大活躍しました。

みなさんの栗原小学校は、昭和25年(1950年)4月25日に、座間町立第二小学校として開校しました。しかし、当時は、町が貧しく、学校内の設備をそろえることができませんでした。そんな折、昭和26年(1951年)6月、アメリカのユタ州ソルトレーク市で夫の村上初蔵さんとともにホテルを経営して成功した村上ミキさんが、30年ぶりに栗原に里帰りし、町の様子をみて、子どもたちのために1千ドルを寄付してくださいました。現在なら約1千万円に相当するでしょう。

座間町では、その寄付をもとに、このピアノを買って第二小学校に置くことにしました。子供たちは大喜びしたそうです。その後も、村上さんは昭和30年(1955年)に76歳で亡くなるまで寄付を続けてくださいました。その寄付で、380冊もの本をそろえた村上文庫という図書室が作られました。小学校の子どもたちには、記念のノートやアメリカのキャンディーが配られました。詳しくは、「郷土の先人に学ぶ」に書かれていますので、読んでください。

それから60年たった平成27年(2015年)8月、偶然に、村上さんの孫のロビン・ドイさん一家と友人が座間市を訪れ、1千ドル(約11万円)を寄付してくださいました。その寄付は、このピアノを保護する柵や掲示板の作成に活用させていただきました。村上ミキさんと子孫の方々のご厚意に改めて感謝いたします。

栗原小学校では、村上ミキさんの郷土を想う気持ちのこもったピアノを、宝物として大切にしてきました。これからも、栗原小学校の歴史と伝統を後世につたえる象徴として、このピアノをみんなで守っていきましょう。

なお、このピアノには、昭和26年(1951年)9月に締結された対日平和条約(「サンフランシスコ講和条約」)を記念して設置されたと書かれています。それは、平和が続くことをみんなが願ったからでしょう。

令和4年2月15日

関係者一同